

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道実技（行書）						
担当教員	室之園 裕美						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>行書の基本的な知識と技法を習得する。また、古典作品の鑑賞の仕方や臨書が出来るようになる。</p> <p>行書を実技面・理論面の両面から理解できるよう、実技と講義で展開する。 実技・講義ともに行書の基本的なことから、芸術としての行書まで幅広く見ていくことにする。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1、硬筆による行書の基礎を習得する（行書の用筆法を習得し、行書の特徴を理解する。） ～点画の曲線化、点画の連続、点画の変化、点画の省略について～ 2、硬筆による行書の基礎を習得する（行書の用筆法を習得し、行書の特徴を理解する。） ～点画の方向の変化、点画の長短の変化について～ 3、硬筆による行書の基礎を習得する（行書の用筆法を習得し、行書の特徴を理解する。） ～筆順の変化、外形の変化について～ 4、毛筆による行書の基礎を習得する～点画の曲線化、連続、変化、省略について～ 5、毛筆による行書の基礎を習得する～点画の方向の変化、長短の変化について～ 6、毛筆による行書の基礎を習得する～筆順の変化、外形の変化について～ 7、王羲之『蘭亭序』について・古典作品の鑑賞の仕方について・臨書について／王羲之『蘭亭序』より4文字臨書 8、半紙作品のまとめ方について／王羲之『蘭亭序』より4文字臨書 9、半切作品のまとめ方について／王羲之『蘭亭序』より4文字臨書 10、王羲之のその他の作品について／王羲之『蘭亭序』より半切に14文字臨書 11、王羲之以外の書家（中国）について、課題について／王羲之『蘭亭序』より半切に14文字臨書 12、王羲之以外の書家（日本）について／課題制作に向けての練習 13、課題作品制作①（半切2分の1） 14、課題作品制作②（半紙） 15、課題作品制作③（半切）、作品・レポート提出
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義と実技による。
評価方法 Evaluation	平常点20%、課題30%、作品・レポート50%
履修上の注意 Requirements and policy	<p>書道の用意（筆、半紙、墨汁、新聞紙等）は、講義第4回目から毎時間必ず持参すること。</p> <p>半紙は多めに持って来ること。</p> <p>総授業数の3分の1以上の欠席で不可となる。遅刻は3回で1欠席とする。</p> <p>携帯電話のマナーは厳守。</p>
教科書 Textbook(s)	蘭亭叙〈五種〉[東晋・王羲之／行書]二玄社
参考書 Reference(s)	必要に応じてプリントを配布します。
備考 Remarks	

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道実技（硬筆）						
担当教員	室之園 裕美						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	硬筆での文字を正しく丁寧に、用途に応じて書けるように、そのポイントを習得し、集中力を身につける。 また書くだけではなく草書体や書写体、旧字体が読めるようになる。 実技演習中心。解説のための講義を行う。硬筆には、普段書く字、実用書、作品と用途によって様々な表現方法がある。また扱う書体も楷書、行書、草書、ひらがな、仮名がある。そのためそれぞれの特徴を知り、基本の書き方を学び、用途に合わせて実際読み書きできるように練習する。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1、オリエンテーション（授業内容の説明や持ち物や注意事項の伝達） 鉛筆の持ち方と書くときの姿勢などの確認。自分の名前を各書体で書く。 2、ひらがなの成立と書き方について。ひらがなの字源を知る/楷書体に合うひらがなと行書体に合うひらがなの練習。 3、楷書体について：字形の整え方について/楷書体の基本用筆の練習（基礎編） 4、楷書体について：縦書きの文章の書き方について/楷書体の基本用筆の練習（応用編） 5、楷書体について：横書きの文章の書き方について/楷書体についてのまとめ 6、行書体について：行書体の基本用筆の練習（基礎編） 7、漢字の部分の名称について、常用漢字の筆順について/行書体の基本用筆の練習（応用編） 8、草書体について：草書体を読み書きする/行書体についてのまとめ 9、実用書の書き方について：はがきの表裏の書き方について 10、実用書の書き方について：手紙文の書き方について（文章、用語、書き出し、結びの言葉など） 11、実用書の書き方について：封筒の表裏の書き方について、掲示文の書き方について 12、筆ペンによる実用書の練習 13、筆ペンによる作品制作（練習） 14 筆ペンによる作品制作（清書） 15、まとめとテスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義と実技による。
評価方法 Evaluation	平常点20%、課題30%、試験50%
履修上の注意 Requirements and policy	3分の1以上の欠席で受講不可。遅刻3回で1欠席。 くれぐれも携帯電話のマナーを守ること。 初回から筆記用具が必要です。 筆ペンやマジックが途中から必要になります。
教科書 Textbook(s)	「ペン習字の基本」 修文館出版株式会社 「ペン習字ノート」（「ペン習字の基本」準拠） 修文館出版株式会社
参考書 Reference(s)	必要に応じてプリント配布。
備考 Remarks	

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道実技（硬筆）						
担当教員	室之園 裕美						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>硬筆での文字を正しく丁寧に、用途に応じて書けるように、そのポイントを習得し、集中力を身につける。また書くだけでなく草書体や書写体、旧字体が読めるようになる。</p> <p>実技演習中心。解説のための講義を行う。硬筆には、普段書く字、実用書、作品と用途によって様々な表現方法がある。また扱う書体も楷書、行書、草書、ひらがな、仮名がある。そのためそれぞれの特徴を知り、基本の書き方を学び、用途に合わせて実際読み書きできるように練習する。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1、オリエンテーション（授業内容の説明や持ち物や注意事項の伝達）、鉛筆の持ち方と書くときの姿勢などの確認。自分の名前を各書体で書く。 2、ひらがなの成立と書き方について。ひらがなの字源を知る/楷書体に合うひらがなと行書体に合うひらがなの練習。 3、楷書体について：字形の整え方について/楷書体の基本用筆の練習（基礎編） 4、楷書体について：縦書きの文章の書き方について/楷書体の基本用筆の練習（応用編） 5、楷書体について：横書きの文章の書き方について/楷書体についてのまとめ 6、行書体について：行書体の基本用筆の練習（基礎編） 7、漢字の部分の名称について、常用漢字の筆順について/行書体の基本用筆の練習（応用編） 8、草書体について：草書体を読み書きする/行書体についてのまとめ 9、実用書の書き方について：はがきの表裏の書き方について 10、実用書の書き方について：手紙文の書き方について（文章、用語、書き出し、結びの言葉など） 11、実用書の書き方について：封筒の表裏の書き方について、掲示文の書き方について 12、筆ペンによる実用書の練習 13、筆ペンによる作品制作（練習） 14 筆ペンによる作品制作（清書） 15、まとめとテスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義と実技による。
評価方法 Evaluation	平常点20%、課題30%、試験50%
履修上の注意 Requirements and policy	<p>3分の1以上の欠席で受講不可。遅刻3回で1欠席。</p> <p>くれぐれも携帯電話のマナーを守ること。</p> <p>初回から筆記用具が必要。</p> <p>筆ペンやマジックが途中から必要になります。</p>
教科書 Textbook(s)	<p>「ペン習字の基本」 修文館出版株式会社</p> <p>「ペン習字ノート」（「ペン習字の基本」準拠） 修文館出版株式会社</p>
参考書 Reference(s)	必要に応じてプリント配布。
備考 Remarks	

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書A						
担当教員	釣 年子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	楷書は現代の標準書体です。一点一画をおろそかにしない書き方は文字の機能性を高めるのみならず、構築的な造形美も有しています。書体変遷の歴史上最後に完成した書体です。ここでは「臨書」という学習法を通して「楷書の極則」と称される九成宮醜泉銘の書法を習得するとともに書風・書美を追求します。
授業計画 Syllabus	<p>① 実技授業の心構え：シラバス配布、学習法の説明、教科書、関連参考文献の紹介、演習に必要な用具用材の説明、諸注意、伝達事項と予告</p> <p>②楷書書法の基礎（執筆法、腕法、姿勢、運筆、三過折、字形のまとめ方）について解説</p> <p>③楷書の基礎：演習1</p> <p>④ 演習2 提出</p> <p>⑤楷書とは？完成までの歴史、臨書について、九成宮醜泉銘について解説</p> <p>⑥ 臨書演習（2字から6字へ順次）</p> <p>⑦ 臨書演習（前回の続き）</p> <p>⑧ 臨書演習（前回の続き）</p> <p>⑨ 臨書演習（これまでの総括と再確認）</p> <p>⑩ 臨書演習 提出、九成宮醜泉銘条幅臨書について予告</p> <p>⑪九成宮醜泉銘条幅臨書演習</p> <p>⑫ 条幅臨書演習（前回の続き）</p> <p>⑬ 条幅臨書演習（前回の続き）</p> <p>⑭ 条幅臨書演習（清書）</p> <p>⑮ 予備日</p> <p>参考書紹介 中国法書選・法書ガイド（二玄社） 書跡名品叢刊（二玄社） 書道の古典/全三巻（二玄社） 書道全集・中国書道全集（平凡社） 書道芸術（中央公論社）</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	臨書演習中心、講義解説、
評価方法 Evaluation	作品の提出、平生点（出席、授業態度）
履修上の注意 Requirements and policy	「楷書A・B」を通しての選択を望む。出席3分の2以上必要。実技の授業として決して教科書・半紙・書道用具などの忘れ物をしないこと。書くことに専念し、教室内では携帯電話の使用厳禁、私語禁止、他人の迷惑になる行為は慎むこと。
教科書 Textbook(s)	授業に際して忘れずに持参すること。必要に応じプリントを配布する。 著名/九成宮醜泉銘（中国法書選No. 31） 著訳編註名/欧陽詢 出版社/二玄社
参考書 Reference(s)	必要な授業に際して忘れずに持参すること 本書は後期で教科書として使用するので必ず購入のこと 著名/書道の古典（全三冊） 著訳編註名/大東文化大学書道研究所 出版社/二玄社
備考 Remarks	

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書A						
担当教員	花田 尊文						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>書道の基礎知識、書法基礎（楷書）</p> <p>書写、書道についての一般的総合的な基本的教養について解説する。書写、書道教育においても日常生活においても正書体である楷書の重要性は論を待たない。これに鑑み楷書古典名跡の臨書演習を中心に講義と解説も織りまぜて楷書書法の習得をめざして学習する。まず、毛筆の扱いに慣れるのが第一段階である。その為に執筆法、腕法、姿勢などの解説を理解した上で実践する。簡単な字例から次第に難易度を上げ習熟に導く。楷書書法の最要点である三過折の習得、字形の観察力と書美の鑑賞力の向上を目指しての臨書に取り組む。</p> <p>まず、半紙で2字、4字、6字書と書く字数を増やししながら単に一字一字に注目するだけではなく章法にも配慮するよう指導する。</p> <p>到達目標</p> <p>書写、書道の基本的知識、および文字・字体・書体・書風、表現について理解と習得。楷書の書美の理解と表現。楷書書法の基本技法の習得。筆遣いの要点、字形のとり方、章法（文字の大きさ、配字、配列など）について理解習得。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回：演習に必要な用具用材についての確認と書写、書道のための参考文献の紹介。書写、書道の基本的知識、および文字・字体・書体・書風、表現について略説。</p> <p>第2回：書写の基礎（執筆法、腕法、姿勢、運筆、三過折、刀法、字形のまとめ方）について解説。</p> <p>第3回：書写演習（簡単な字例から）。</p> <p>第4回：書写演習（前回の続き）、清書提出。</p> <p>第5回：楷書の歴史と楷書古典名跡（「孔子廟堂碑」「九成宮醴泉銘」など）について解説。</p> <p>第6回：臨書演習（主として唐楷 半紙2字書）。</p> <p>第7回：臨書演習（半紙2、4字書）。</p> <p>第8回：臨書演習（半紙4、6字書）。</p> <p>第9回：臨書演習（半紙6字書）。VTRによりこれまでの総括と再確認。</p> <p>第10回：臨書演習、清書提出。</p> <p>第11回：臨書演習（主として北碑 半紙2字書）。</p> <p>第12回：臨書演習（半紙4字書）。</p> <p>第13回：臨書演習（半紙6字書）。</p> <p>第14回：臨書演習、清書提出。</p> <p>第15回：書の定義、書道教育、書の鑑賞について講義。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	実技演習中心、講義解説も織りまぜる。
評価方法 Evaluation	作品、レポートの提出50%。平常点50%。
履修上の注意 Requirements and policy	<p>「楷書A・B」と通しての選択を望む。</p> <p>10回以上の出席必要、不足の場合評価対象外となる。</p> <p>教科書、書道用具等の忘れ物をしないこと。</p> <p>携帯電話の使用厳禁、教室内では電源を切りしなうこと。私語禁止。他人の迷惑になる行為は慎むこと。</p>
教科書 Textbook(s)	<p>書名/九成宮醴泉銘(中国法書選No. 31)</p> <p>著訳編註名/欧陽詢</p> <p>出版社/二玄社</p> <p>ISBN/4544005310</p> <p>必要に応じプリントを配布する。</p>
参考書 Reference(s)	<p>書名/書道の古典(全三冊)</p> <p>著訳編註名/大東文化大学書道研究所</p> <p>出版社/二玄社</p> <p>ISBN/4544014336</p> <p>教科書としても使用するので必ず購入すること。</p> <p>必要な授業に際して忘れずに持参すること。</p>

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書B						
担当教員	花田 尊文						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>「書法の基礎と楷書A」を受け多様な楷書の書美と書法を学習。条幅作品。 「書法の基礎と楷書A」で未習の楷書古典の臨書演習を中心に講義と解説も織りまぜて学習する。次に、半紙書きの経験を元に条幅（半切）書きの演習に取り組む。楷書による半切臨書作品の完成を目指す。</p> <p>到達目標 臨書の意義と効用について理解。楷書の書美、その諸相（時代的様式、作者の個性）について理解、書法についても習得。小楷演習（三過折、字形、章法）。条幅作品揮毫。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回：「書法の基礎と楷書A」で未習の唐代の楷書古典（褚遂良、顔真卿など）について略説。臨書演習に入る。 第2回：臨書演習（褚遂良）。 第3回：臨書演習（褚遂良、顔真卿）。 第4回：臨書演習（顔真卿）、提出。 第5回：楷書の特徴別の種類について解説。更に未習の古典について臨書演習（魏晉小楷、楽毅論）。 第6回：臨書演習（魏晉小楷）。 第7回：臨書演習（楽毅論）。 第8回：臨書演習（魏晉小楷、楽毅論）、提出。 第9回：楷書書法の応用と展開。小楷演習（美人董氏墓誌）まず書いてみる。 第10回：臨書演習（一字々々の特徴を詳細に原本と比較検討する）。 第11回：臨書演習（文字の大きさ、字間行間に注意する）、提出。条幅臨書について予告、解説。 第12回：条幅臨書演習（各自選択範囲の手本配布、まず書いてみる） 第13回：条幅臨書演習（一字々々の特徴を詳細に原本と比較検討する） 第14回：条幅臨書演習（文字の大きさ、字間行間にも注意する） 第15回：条幅臨書演習（止め、ハネ、払い、線の太細など細部の表現にも配慮する）、清書提出。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	実技演習中心。講義、解説も織りまぜる。
評価方法 Evaluation	作品、レポートの提出50%。平常点50%。
履修上の注意 Requirements and policy	<p>「書法の基礎と楷書A」履修済みの者に限る。 「楷書A・B」と通しての選択を望む。 10回以上の出席必要、不足の場合評価対象外となる。 教科書、書道用具等の忘れ物をしないこと。 携帯電話の使用厳禁、教室内では電源を切りしなうこと。私語禁止。他人の迷惑になる行為は慎むこと。</p>
教科書 Textbook(s)	<p>書名/九成宮醜泉銘(中国法書選No. 31) 著訳編註名/欧陽詢 出版社/二玄社 ISBN/4544005310</p> <p>書名/書道の古典(全三冊) 著訳編註名/大東文化大学書道研究所 出版社/二玄社 ISBN/4544014336</p> <p>必要に応じプリントを配布する。</p>
参考書 Reference(s)	

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	中国書道史						
担当教員	花田 尊文						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>中国の書道史 中国史の時代区分を追いながら書の歴史の変遷を講ずる、併せて政治・経済・思想や文化の事情を知り、歴史上の人物像についても解説しより深い理解を目指したい。テキストに沿って進行、より精度の高い文字資料の映像や実物資料の提示と解説も行う。</p> <p>到達目標 漢字の発生からその変遷進化、書体の完成、書芸術の発生展開について中国の書道史の基本的事項について理解習得する。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回：諸注意、伝達事項、シラバス配布とその説明、工具書や関連参考文献の紹介。中国書道の導入として文字の始まり、つまり漢字創成の伝説と実際について解説。</p> <p>第2回：殷、西周。（甲骨文、金文）</p> <p>第3回：西周、東周。（金文、列国体、石鼓文、簡牘書）</p> <p>第4回：秦、前漢。（篆書、簡牘書、帛書、隸書）</p> <p>第5回：後漢。（八分隸、漢碑）</p> <p>第6回：三国、西晋。（残紙、楷書の定立、書人の登場）</p> <p>第7回：東晋。（王羲之・王献之、書芸術の出現）</p> <p>第8回：南北朝。（南朝＝羲之の継承、北朝＝北碑、龍門二十品など）</p> <p>第9回：隋、唐。（墓誌銘、楷書の完成、初唐の三大家）</p> <p>第10回：唐。（中唐・晩唐の書、顔真卿）</p> <p>第11回：宋。（淳化閣帖、北宋の四大家、南宋・金の書）</p> <p>第12回：元、明。（趙孟頫・復古主義、元末明初の書人）</p> <p>第13回：明。（文人主義、中期の書道興隆、帖学、董其昌、明末ロマン主義）</p> <p>第14回：清。（明末清初の書、帖学派・碑学派）</p> <p>第15回：清。（揚州八怪、金石学、篆隸の書、篆刻）</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	レポートの提出50%。平常点50%。
履修上の注意 Requirements and policy	<p>10回以上の出席必要、不足の場合評価対象外となる。</p> <p>授業に際してテキスト・プリントを忘れずに持参すること。</p> <p>携帯電話の使用厳禁、教室内では電源を切りしなうこと。私語禁止。他人の迷惑になる行為は慎むこと。</p>
教科書 Textbook(s)	<p>書名/中国書道史年表 著訳編註名/玉村霽山 出版社/二玄社 ISBN/4544012414 必要に応じプリントを配布する。</p>
参考書 Reference(s)	<p>書名/書道の古典(全三冊) 著訳編註名/大東文化大学書道研究所 出版社/二玄社 ISBN/4544014336</p>
備考 Remarks	

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教育入門						
担当教員	村上 敬一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【授業の目的】 外国語としての日本語教育と異文化間コミュニケーション、多文化共生についての理解を深める</p> <p>【概要】 外国語としての日本語教育を実践的に学び、日本語を外国語として学ぶ人々への理解を深めるなかで、日本語教育の基礎的な知識を学ぶ。日本語教育を通じて、自身の身近な問題から、グローバル化した社会問題まで、多角的な視野と思考力を身に付けるためのトレーニングを行なう。講義だけでなく、異文化間コミュニケーション、多文化共生の実践として、留学生との合同授業を行なうなど、実体験を通じた学習形態も取り入れる。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 イン트로ダクション 第2回 日本語を学ぶ人 第3回 日本語を教える人 第4回 日本語教育における異文化コミュニケーション（1） 第5回 神戸大留学生との合同授業 第6回 日本語教育における異文化コミュニケーション（2） 第7回 日本語教育における異文化コミュニケーション（3） 第8回 日本語教育のコースデザイン 第9回 日本語教育教授法（1） 第10回 日本語教育教授法（2） 第11回 第二言語習得と日本語教育（1） 第12回 第二言語習得と日本語教育（2） 第13回 日本語教育の歴史（1） 第14回 日本語教育の歴史（2） 第15回 まとめと今後に向けて</p> <p>※ アジアプログラム留学生との合同授業に振り替える場合がある。 そのときは、改訂したものを通知する。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義、留学生との体験的授業
評価方法 Evaluation	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価60%とレポート、試験40%
履修上の注意 Requirements and policy	出席することはもちろん、授業中の諸活動に進んで参加すること。
教科書 Textbook(s)	プリントを配付する
参考書 Reference(s)	<p>遠藤織枝（編）『日本語教育を学ぶ』三修社 山下暁美（編著）『日本語教育文法講義ノート』アルク 庵功雄ほか『やさしい日本語のしくみ』くろしお出版 堀井恵子『日本語教育への扉』凡人社</p>
備考 Remarks	

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教育入門						
担当教員	村上 敬一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【授業の目的】 外国語としての日本語教育と異文化間コミュニケーション、多文化共生についての理解を深める</p> <p>【概要】 外国語としての日本語教育を実践的に学び、日本語を外国語として学ぶ人々への理解を深めるなかで、日本語教育の基礎的な知識を学ぶ。日本語教育を通じて、自身の身近な問題から、グローバル化した社会問題まで、多角的な視野と思考力を身に付けるためのトレーニングを行なう。講義だけでなく、異文化間コミュニケーション、多文化共生の実践として、留学生との合同授業を行なうなど、実体験を通じた学習形態も取り入れる。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 イン트로ダクション 第2回 日本語を学ぶ人 第3回 日本語を教える人 第4回 日本語教育における異文化コミュニケーション（1） 第5回 神戸大留学生との合同授業 第6回 日本語教育における異文化コミュニケーション（2） 第7回 日本語教育における異文化コミュニケーション（3） 第8回 日本語教育のコースデザイン 第9回 日本語教育教授法（1） 第10回 日本語教育教授法（2） 第11回 第二言語習得と日本語教育（1） 第12回 第二言語習得と日本語教育（2） 第13回 日本語教育の歴史（1） 第14回 日本語教育の歴史（2） 第15回 まとめと今後に向けて</p> <p>※ アジアプログラム留学生との合同授業に振り替える場合がある。 そのときは、改訂したものを通知する。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義、留学生との体験的授業
評価方法 Evaluation	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価60%とレポート、試験40%
履修上の注意 Requirements and policy	出席することはもちろん、授業中の諸活動に進んで参加すること。
教科書 Textbook(s)	プリントを配付する
参考書 Reference(s)	<p>遠藤織枝（編）『日本語教育を学ぶ』三修社 山下暁美（編著）『日本語教育文法講義ノート』アルク 庵功雄ほか『やさしい日本語のしくみ』くろしお出版 堀井恵子『日本語教育への扉』凡人社</p>
備考 Remarks	

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門A／池谷 知子						
担当教員	池谷 知子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	高校までの国語から、大学における日本語研究への橋渡しとして、あたりまえの日本語の中にある規則性を発見し、ことばへの感心を引き出す。また、コードスイッチングなどのことばの切り換えや、ことばの変化(乱れ)にも触れて、コミュニケーションの問題についても考える。できるだけ学生に作業やディスカッションをさせながら、日本語の文法のごく基礎的な知識が身につくよう配慮する。
授業計画 Syllabus	第1回 はじめに 第2回 図書館活用の方法 第3回 ~頭・~匹、~本 — ものの数え方 第4回 ~と、~といっしょに — 動詞と文型 第5回 愛す人・愛する人 — 動詞の活用とその変化 第6回 取り組み・活動 — 動詞と名詞 第7回 うれしい・悲しい — 形容詞と感情 第8回 飛びます・痛いです — 動詞・形容詞とデス・マス 第9回 動詞・形容詞の問題まとめ 第10回 あなた — 人の呼称1 第11回 人が心配してるのに — 人の呼称2 第12回 ここでお待ちしてください。 — 敬語 第13回 あすお目にかかります。 — ことばの選択・コードスイッチング 第14回 コミュニケーションの問題まとめ 第15回 試験・まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	試験40% 平常点60%
履修上の注意 Requirements and policy	自分の覚え書きとしてのノートを作ることを心がけてほしい(大学の学びの基本です)。ディスカッションや作業には積極的に参加すること。
教科書 Textbook(s)	適宜プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門A／村上 敬一						
担当教員	村上 敬一						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	高校までの国語から、大学における日本語研究への橋渡しとして、あたりまえの日本語の中にある規則性を発見し、ことばへの感心を引き出す。また、コードスイッチングなどのことばの切り換えや、ことばの変化(乱れ)にも触れて、コミュニケーションの問題についても考える。できるだけ学生に作業やディスカッションをさせながら、日本語の文法のごく基礎的な知識が身につくよう配慮する。
授業計画 Syllabus	第1回 はじめに 第2回 図書館活用の方法 第3回 ～頭・～匹、～本 — ものの数え方 第4回 ～と、～といっしょに — 動詞と文型 第5回 愛す人・愛する人 — 動詞の活用とその変化 第6回 取り組み・活動 — 動詞と名詞 第7回 うれしい・悲しい — 形容詞と感情 第8回 飛びます・痛いです — 動詞・形容詞とデス・マス 第9回 動詞・形容詞の問題まとめ 第10回 あなた — 人の呼称1 第11回 人が心配してるのに — 人の呼称2 第12回 ここでお待ちしてください。 — 敬語 第13回 あすお目にかかります。 — ことばの選択・コードスイッチング 第14回 コミュニケーションの問題まとめ 第15回 試験・まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	試験40% 平常点60%
履修上の注意 Requirements and policy	自分の覚え書きとしてのノートを作ることを心がけてほしい(大学の学びの基本です)。ディスカッションや作業には積極的に参加すること。
教科書 Textbook(s)	適宜プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門A／吉井 健						
担当教員	吉井 健						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	高校までの国語から、大学における日本語研究への橋渡しとして、あたりまえの日本語の中にある規則性を発見し、ことばへの感心を引き出す。また、コードスイッチングなどのことばの切り換えや、ことばの変化(乱れ)にも触れて、コミュニケーションの問題についても考える。できるだけ学生に作業やディスカッションをさせながら、日本語の文法のごく基礎的な知識が身につくよう配慮する。
授業計画 Syllabus	第1回 はじめに 第2回 図書館活用の方法 第3回 ~頭・~匹、~本 — ものの数え方 第4回 ~と、~といっしょに — 動詞と文型 第5回 愛す人・愛する人 — 動詞の活用とその変化 第6回 取り組み・活動 — 動詞と名詞 第7回 うれしい・悲しい — 形容詞と感情 第8回 飛びます・痛いです — 動詞・形容詞とデス・マス 第9回 動詞・形容詞の問題まとめ 第10回 あなた — 人の呼称1 第11回 人が心配してるのに — 人の呼称2 第12回 ここでお待ちしてください。 — 敬語 第13回 あすお目にかかります。 — ことばの選択・コードスイッチング 第14回 コミュニケーションの問題まとめ 第15回 試験・まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	試験40% 平常点60%
履修上の注意 Requirements and policy	自分の覚え書きとしてのノートを作ることを心がけてほしい(大学の学びの基本です)。ディスカッションや作業には積極的に参加すること。
教科書 Textbook(s)	適宜プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門B／池谷 知子						
担当教員	池谷 知子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	文章を書くことは、大学の勉学に欠かせないことであり、かつ、社会に出ても役立つ能力である。この授業では、文芸的な文章ではなく、論説的な文章に重点を置いて、文章の構造や、表現の的確さを高める上での修飾や接続の仕方を分析する。また、短い文章を書くことを数回に亘って課す。さらに、〈感謝〉などいくつかのコミュニケーション上の領域で使われる表現を分析し、さまざまな表現からパターンを整理することを学ぶ。
授業計画 Syllabus	第1回 導入 メールは書きことばか話しことばか 第2回 新聞の文章を分析する 方法篇：センテンスの長さ・統語構造など 第3回 新聞の文章を分析する 発表篇 第4回 新聞以外の論説的な文章を分析する 方法篇：センテンスの長さ・統語構造など 第5回 新聞以外の論説的な文章を分析する 発表篇 第6回 レシピの文章を分析する 方法篇：テンスの現れ方など 第7回 レシピの文章を分析する 実践篇：わかりやすさの工夫 第8回 日常を他者の視点で書く文章 人称制限について 第9回 日常を他者の視点で書く文章 一人称の表現と非一人称の表現 第10回 さまざまな文章のスタイル 第11回 依頼の表現 第12回 ことわりの表現 第13回 謝罪の表現 第14回 感謝の表現 第15回 試験・まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	試験40% 平常点60%
履修上の注意 Requirements and policy	ディスカッションや作業には積極的に参加すること。
教科書 Textbook(s)	適宜プリントを配付する。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門B／村上 敬一						
担当教員	村上 敬一						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	文章を書くことは、大学の勉学に欠かせないことであり、かつ、社会に出ても役立つ能力である。この授業では、文芸的な文章ではなく、論説的な文章に重点を置いて、文章の構造や、表現の的確さを高める上での修飾や接続の仕方を分析する。また、短い文章を書くことを数回に亘って課す。さらに、〈感謝〉などいくつかのコミュニケーション上の領域で使われる表現を分析し、さまざまな表現からパターンを整理することを学ぶ。
授業計画 Syllabus	第1回 導入 メールは書きことばか話しことばか 第2回 新聞の文章を分析する 方法篇：センテンスの長さ・統語構造など 第3回 新聞の文章を分析する 発表篇 第4回 新聞以外の論説的な文章を分析する 方法篇：センテンスの長さ・統語構造など 第5回 新聞以外の論説的な文章を分析する 発表篇 第6回 レシピの文章を分析する 方法篇：テンスの現れ方など 第7回 レシピの文章を分析する 実践篇：わかりやすさの工夫 第8回 日常を他者の視点で書く文章 人称制限について 第9回 日常を他者の視点で書く文章 一人称の表現と非一人称の表現 第10回 さまざまな文章のスタイル 第11回 依頼の表現 第12回 ことわりの表現 第13回 謝罪の表現 第14回 感謝の表現 第15回 試験・まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	試験40% 平常点60%
履修上の注意 Requirements and policy	ディスカッションや作業には積極的に参加すること。
教科書 Textbook(s)	適宜プリントを配付する。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門B／吉井 健						
担当教員	吉井 健						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	文章を書くことは、大学の勉学に欠かせないことであり、かつ、社会に出ても役立つ能力である。この授業では、文芸的な文章ではなく、論説的な文章に重点を置いて、文章の構造や、表現の的確さを高める上での修飾や接続の仕方を分析する。また、短い文章を書くことを数回に亘って課す。さらに、〈感謝〉などいくつかのコミュニケーション上の領域で使われる表現を分析し、さまざまな表現からパターンを整理することを学ぶ。
授業計画 Syllabus	第1回 導入 メールは書きことばか話しことばか 第2回 新聞の文章を分析する 方法篇：センテンスの長さ・統語構造など 第3回 新聞の文章を分析する 発表篇 第4回 新聞以外の論説的な文章を分析する 方法篇：センテンスの長さ・統語構造など 第5回 新聞以外の論説的な文章を分析する 発表篇 第6回 レシピの文章を分析する 方法篇：テンスの現れ方など 第7回 レシピの文章を分析する 実践篇：わかりやすさの工夫 第8回 日常を他者の視点で書く文章 人称制限について 第9回 日常を他者の視点で書く文章 一人称の表現と非一人称の表現 第10回 さまざまな文章のスタイル 第11回 依頼の表現 第12回 ことわりの表現 第13回 謝罪の表現 第14回 感謝の表現 第15回 試験・まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	試験40% 平常点60%
履修上の注意 Requirements and policy	ディスカッションや作業には積極的に参加すること。
教科書 Textbook(s)	適宜プリントを配付する。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本書道史						
担当教員	室之園 裕美						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：今日、当たり前のように使っている漢字や仮名であるが、実は世界に誇る文化遺産である。漢字や仮名について知ることは日本の文化を知ることであり、それらの起源から知ることによって私たちの祖先たちの想像力の素晴らしさや日本人としての誇りを感じられるようになることがテーマである。</p> <p>到達目標：日本の書の歴史と各時代ごとの書の特徴についての知識を習得させる。</p> <p>授業の概要：日本書道史を時代区分し、各時代の時代背景・文化・文学をふまえた上で、その時代の書の特徴を講義する。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回：オリエンテーション（授業内容の説明や持ち物や注意事項の伝達）</p> <p>第2回：日本書道史概要解説、年表チェック。</p> <p>第3回：聖徳太子以前（漢字の伝来 文献記録と実物文字資料）。</p> <p>第4回：これより聖徳太子以後 大和時代（模倣期）。</p> <p>第5回：奈良時代（前項の続き、天平文化）。</p> <p>第6回：平安時代初期（過渡期 三筆）。</p> <p>第7回：平安時代中期～後期（完成期 三蹟 古筆名品）。</p> <p>第8回：平安時代中期～後期（前回の続き 古今集との関係）。</p> <p>第9回：仮名の変遷についてのまとめ。</p> <p>第10回：平安時代末～鎌倉時代（継承期 忠道、俊成、西行、後鳥羽天皇、定家、平家納経）。</p> <p>第11回：室町時代（衰微期 禅林墨跡）。</p> <p>第12回：安土桃山時代～江戸初期（復興期 寛永の三筆）。</p> <p>第13回：江戸時代～明治初期（普及期 御家流 儒学者、文人の書）。</p> <p>第14回：明治時代以後（楊守敬来日、北碑の書 難波津会、古筆の復興 新時代の書家達）。</p> <p>第15回：定期試験。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義と実技による。
評価方法 Evaluation	平常点20%、提出課題30%、定期テスト50%による総合評価。
履修上の注意 Requirements and policy	全授業数の3分の1以上の欠席で、不可。また、遅刻3回で1欠席とする。 くれぐれも携帯電話のマナーを厳守すること。常識と節度のある態度で授業に臨むこと。
教科書 Textbook(s)	「日本書道史年表」 名児耶明編 二玄社刊 定価¥1470 ISBN4-544-01242-2
参考書 Reference(s)	必要に応じプリント配布
備考 Remarks	

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文化入門						
担当教員	片岡 利博						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	多様な古典の世界を学びつつ、高校までの勉強とはひと味違った形で、日本文化や日本文学の盛会を紹介してゆく。
授業計画 Syllabus	<ul style="list-style-type: none"> 1 日本文学のジャンルと歴史区分 2 口承と漢字 3 和習漢文 4 日本語のエクリチュール 5 天皇制と宮廷サロン 6 伝承話型 7 神々と仏教 8 年中行事 9 制度と政治 10 通過儀礼 11 恋愛と結婚 12 服装と服飾 13 医療と呪術 14 命と心と身体 15 総括と試験
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	講読を交えての講義
評価方法 Evaluation	出席点50点と、レポートおよび期末試験50点
履修上の注意 Requirements and policy	
教科書 Textbook (s)	プリントによる。
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文化入門						
担当教員	片岡 利博						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	多様な古典の世界を学びつつ、高校までの勉強とはひと味違った形で、日本文化や日本文学の盛会を紹介してゆく。
授業計画 Syllabus	<ul style="list-style-type: none"> 1 日本文学のジャンルと歴史区分 2 口承と漢字 3 和習漢文 4 日本語のエクリチュール 5 天皇制と宮廷サロン 6 伝承話型 7 神々と仏教 8 年中行事 9 制度と政治 10 通過儀礼 11 恋愛と結婚 12 服装と服飾 13 医療と呪術 14 命と心と身体 15 総括と試験
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	講読を交えての講義
評価方法 Evaluation	出席点50点と、レポートおよび期末試験50点
履修上の注意 Requirements and policy	
教科書 Textbook (s)	プリントによる。
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	